

大人が癒される言葉・子どもが癒される言葉

★大人が嬉しい『言われるとヤル気 100 倍！感謝の言葉』

「ママ、いつも美味しいご飯ありがとうね」「きれい、きれいしてくれて、ありがとう」など感謝の言葉もあどけない子どもから発せられると、疲れた体と心にスーッと沁みますね。

★大人が嬉しい『慰めたり心配してくれる言葉』

「大丈夫だよ、私がいるから」「どうしたの？ママ疲れちゃったの？」「痛い痛い飛んでけ～！」など、優しい言葉を投げかけてくれたら、子どもが相手でもつい甘えたくなくなってしまいますよね。

★大人が嬉しい『正義の味方になる言葉』

「ぼくが敵からママを守ってあげるから」など。悩んだときに同調してくれるだけでも気分が落ち着くのと同じで、まさに子どもに味方になってもらえたら、こんなに嬉しい事はありません。

★大人が嬉しい『お約束の？！【永遠の誓い】の言葉』

「僕、大きくなったらママと結婚する！」「絶対、パパのお嫁さんになる」など、ドラマでありがちなシーンですが、リアルに言われると感動します。

言葉を喋りだす時期はただそれだけで一期一句に感動するものですが、それを経て生まれる【感動する言葉】はママやパパが一生懸命、子どもと接してきた証拠です。

では反対に、『子どもが言われて嬉しい言葉』はどんな言葉でしょう…。



よく頑張ったね、すごいね、ありがとう、おめでとう、おかえり、信じてるよ、大好きだよです。このような言葉を、1日にたくさんかけてあげられるといいですよ♥

小声で…でも現実には、〇〇しなさい、△△やったらダメでしょ、いい加減に……とかなりありますが…(^^ゞ (仕方ない、笑) 子育てしていく過程で、下記の【子育て4訓】を見て、全くその通り！と…。



- ・ 乳児は肌を離すな
- ・ 幼児は肌を離して手を離すな
- ・ 少年は手を離して目を離すな
- ・ 青年は目を離して心を離すな



子どもとの距離が離れるにつれて、子どもの意思を尊重するようにしなくてはならないことを示唆しています。親は子どものことを一番大切に考えています。ですからそれを子どもに伝えることが必要であり、大切なことです。言葉で気持ちを伝えることはとても大切なことです。

そして、親が子どもの心を離していないならば、子どもが成長した時に、例え、子どもが辛い思いをした時でも、「親はどう思うだろう」「励ましてくれるかな」などと、親のことを思い浮かべてくれるでしょう。そういう親子関係を幼少期から育みたいですね。